

濠州の旅（その4）

石井敏雄

シドニーからメルボルンへは飛行機から汽車、バス、船等で行けることは行けるが一行4名の意見で船でゆくことになった。タスマニヤ島の北部に船がさしかかったとき、私達は船室にくつろいでいたところ、鯨が見えるという連絡で飛びだしていった。いるわいるわ、右にも左にも前にも沢山鯨がみえる。必ず雄雌ということで仲よく遊泳していた。潮を吹いては沈むが浮いているときの時間が短いのでカメラに撮ることがむずかしかった。カメラに収めたつものものが結局1枚も撮れていなかった。

2日目にメルボルンに到着した。船が横付けになったところは市街から遠く離れていた。メルボルンは人口150万人で、濠州の第2位の都市ということです。1956年（昭和31年）オリンピックの開催されたところでもある。シドニーでは川の水が海水のように青色に見える蚊も蠅も一匹としていなかったが、メルボルンでは川の水が醤油のようで、きたなく蠅もブンブンとんできてうるさく閉口した。繁華街にゆくのに荷役労働者が利用しているオンボロバスが、30分おきにでるので8ペンス（約25円）でゆくことにした。3日間砂漠からの熱風のため、40℃以上の気温で日陰に這入っても涼しくなくかえって息苦しいので一行は街を散歩した。

到着した日がちょうど土曜日であったため事務所は午前中で、商店も閉めていた。あるビルの前で一人の紳士が私達を呼びとめた。この呼びとめた人は第一物産に勤めている人であった。そのため私達をなつかしがり、いろいろと日本のことを質問してきた。異国で会う日本人はなつかしいものでどんな人でもなつかしい気持ちをいさぐであらう。いろいろと話をしていたところ1台の乗用車が私達のところで止った。ニュージーランドロスのメルボルン支店内に事務所を置いている兼松株式会社駐在員吉岡氏一行を探してい

たところで、広い町でよく会えたわけである。吉岡氏の案内で博物館の見学に行った。博物館の中は割合に涼しく5時の閉館までもいた。なかなか立派で、濠洲の歴史、産業等ひとめでわかったような気持ちになった。

メルボルンでは、午後6時まで商店が開店のため、博物館を出て沢山の人がビールを立ち飲みしている中に入って、私達もビールを飲んだ、日本のようにツマミというようなものはない。

翌日は日曜日、船積人夫は見受けられず、用事もなく船にいてもつまらないのでまたも街に散歩にでかけ観光バスで市内見物をした。無名戦士の墓、植物園、キャプテン・クックの家、海水浴場等がみたものの主なものであった。昼食は支那人の経営している店にした。日本にあるものと余りかわらない。ところどころの街角に赤い四角の郵便ポストのようなものが立っている。それに赤い電気がついていて穴へ6ペンス（約20円）入れると、紙のコップが出てきて、それに冷いジュースが一杯になる。暑く、喉がかわいたので喉がなってお腹に入った。美味しかったことは格別だ。美味しいことは日本ではみられないようなものであった。日曜日は、日本と違って、街を歩いている人は殆んどいない。私達は写真を方々にとって廻ったが撮っているときは前を通らず後を通るか、撮り終るまで待っている。翌日の新聞をみると11名が熱射病で死んでいた。南国でならの記事であらう。午後4時の気温が43℃だから無理もないと思った。

ニュージーランド・ローンの事務所で煙草マッチを使っていたら交換してくれとのこと、東海道53次の模様が珍しいのか好まれるのか実に喜んでくれた。小マッチ1個が2ペンス（約6円）である。映画館の中は、場所によって入場料が違って、真中が高くその前後が安い。映画の前に全員起立してなにがあるのかと思っていたら国歌が歌われた。ちょっとして珍風

岡山畜産便り1959.08

景だ。映画館の中では、喫煙室以外に煙草をすっている人は一人もみられなかった。日本はどうであろう。

メルボルンの繁華街はパークストリートで、岡山の表8カ町と同じようなところにあるが道路の中は問題にならないくらい広い。百貨店もマイヤー、パークス等大きなものがあった。同じ百貨店でも女用の品物は別の建物で売っていて、そこへ間違ってしまったところ男は全然いない。聞いてみて吃驚した次第で、ホウホウの態で逃げだした。

1月21日早朝メルボルンを出発してアデレードに向った。船は荷物を港々でおろして行く。船足は浅く、船は大きく揺れる。船はアデレードから30マイル程離れたポートアデレードに着くようになっていた。港はいずれも大海から河を2、3～マイルのぼったところに横付けされる。ポートアデレード港へゆくには、河巾200m位だが船の通過できるところは、80m位なので港からでてくる船がいると港外で待つことになっている。私達の船も暫く待っていると、日東ラインの一万t級の英和丸が近くを通過した。お互いにハンカチを振っている。異国での同胞はかくも懐しいものであろうか。ポートアデレード港には1月22日午後5時30分であった。まもなく4人の男女が船を見学にきた。この人はアデレード大学の学生であった。日濠親善に少しでも役にたてばと思い私達の船室で色々もてなした。アデレードは人口50万人で郊外には牧場はあまり見られなく果樹及び野菜がみられた。しかし麦類の集散地でもある。日本にも輸入されるのだろう岩壁に沢山の麦が貨車で運ばれてきていた。

(筆者・畜産課衛生係長)